

# 令和4年度 学校評価書

学校名（東温市立北吉井小学校）

令和5年2月6日

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子の育成（生きる力の育成）』  
 2 経営の基本方針 「よさやちがいを生かし合う笑顔あふれる学校」→『子どもの成長・安全・安心を中核に』←「家庭・地域との連携・協働」(1) 元気な子を育てる(自律) (2) 一生懸命な子を育てる(勤勉) (3) やさしい子を育てる(協力)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員より
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さな変化やトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応し、組織的に未然防止及び課題の早期発見・早期解決に努めている。	4.0	3.7	3.2	○ 「いじめ・不登校等の対応」「相談体制の充実」については、教職員、児童、保護者の評価が昨年度より上昇した。特に、児童、保護者は全項目において評価が上昇している。児童の良さや気になることについては、教職員が迅速に家庭連絡し共通理解を図る、チームでケース会議を行い組織的に対応する等、児童一人一人に寄り添った対応に取り組んだことを評価していただいた。また、校内組織の工夫により個に応じた教育相談の充実が努めることにより、不登校児童の減少や別室登校児童の教室復帰など、児童が安心して学校生活を送ることができる環境が整ってきている。 ○ 心を込めた挨拶については、個人差が見られるものの、地域からは「挨拶する子が増えている」という評価も多い。今後、挨拶の仕方だけでなく、家庭時間の使い方についても評価の観点に加えたい。	【総評】 ・子供を中心に据えた先進的な教育に挑戦している。また、何事にも学校全体で積極的に取り組んでいるのが良い方向に動いている。 ・先生方の日々の努力の積み重ねがあって評価が向上していると思う。 ・北吉井小学校の空気感はずごく気持ち良く、明るく感じる。 【生徒指導】学校は、いじめ・トラブルの未然防止と迅速な対応をきめ細やかにしている。基本的な生活習慣の観点が挨拶に限定されている。他に、家庭学習と遊びの区別など広く捉えることも必要と感じる。 【確かな学力を育てる教育】主体的な学びを重視して意欲的な学びの支えができています。全体はもちろん、個別での教育も丁寧に行っている様子が伝わり、それが保護者にも行き届いていることが評価に表れている。新しい教育の流れの中でも、これまでに実施してきたことで効果のあったことは継続してほしい。 【豊かな心、健やかな体を育てる教育】保護者も健康の意識が高くなっている。そんな中で、学校からの情報が安心感をもたらしてくれると思われる。先日学校を訪れた際、子供たちの思いやりの姿が見えた。「ありがとう」や会釈が自然にできる子が育っている。
	基本的生活習慣の定着	心を込めた挨拶や返事、会釈の定着を図っている。	3.2	3.5	3.1		
	相談体制の充実	一人一人の児童の変化を見逃さず、児童の情報を共有し、児童理解に基づく教育相談や保護者参加のケース会議等をチームで対応している。	3.7	3.6	3.3		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に順番がある学習や活動の場を工夫し、e ライブラリやプリント等を活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.4	3.5	3.3	○ 教職員と保護者との評価格差が少なくなり、学校の学習指導について一定の理解が得られていることがうかがえる。物事の筋道を考えたり、言葉でまとめたりする力が付いてきているといった分かる授業の実践に努めていることについて評価する声が聞かれた。また、家庭学習についても教員の見取りがしっかりできていることを評価する声が多く聞かれた。 ● 今後は、授業中の小集団活動が充実するよう努め、学び合い・振り返りのある学習活動についても定着を図ってきたい。	
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や取り組み方について全校の共通理解の基、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.2	3.6	3.1		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えやその理由や根拠を明確にし、学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.0	3.6	3.1		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.4	3.8	3.4	○ 昨年度に引き続き、保護者評価が大きく向上した。北小運動会やころきり集会で、児童が心を合わせて取り組む姿、教職員が丸となって運営する様子について高い評価をいただいた。また、道徳科の授業力向上のため、昨年度に引き続いて授業研究に取り組み、道徳的実践力や集団における規範意識の向上を図ってきた。学習したことを生活の中で実践できていることが児童の評価にも表れた。 ○ 課題であった「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けについては、保健だよりによる啓発と「元気モリモリカード」を使った生活リズムを記録することによる取組によって家庭と連携を図ることができた。これらの取組によって「家族で保健だよりを読むようになった」「生活リズムの見直しができた」といった御意見をいただいている。	
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識を支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.5	3.7	3.5		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携し、「早寝・早起き・朝ご飯」の意識付けと健康・安全意識の向上に努めている。	3.0	3.5	3.4		
	体験活動の充実	自然体験・社会体験活動を充実させ、自立心の育成を図るために行事を工夫して行っている。	3.1	3.6	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	校内支援体制を整備し、専門家や校内スタッフの情報を参考に、一人一人のニーズに応じた支援を行っている。	3.3	3.4	3.2	○ 本年度通級指導教室が新設され、個に応じたきめ細かな支援の充実が進んだ。保護者からは、通級指導教室新設を歓迎する意見が挙がっている。また、交流及び共同学習を推進したり、教職員対象の特別支援教育研修会を毎学期実施したりすることで、ニーズに応じた支援の充実を図った。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.4	3.6	3.6	○ 登下校の安全見守りについては、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいると評価する保護者が多く、評価数値も高くなっている。また、本年度は、3年ぶりとなる保護者引き渡し訓練や不審者対応避難訓練を実施するなど、年間に5回の訓練を実施した。児童の防災・防犯意識が向上したことが児童評価からうかがえる。安心、安全な学校づくりに引き続き努めたい。 ● 評価は高いものの、見守りをしている保護者から児童数が増え、並び方や歩き方に課題があるという意見が挙がっている。今後、PTA支部と連携して班編成の見直しを図っていく。	
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.3	3.8	3.3		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.1	3.5	3.3		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとCSの推進	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	3.1	3.4	3.4	○ 昨年度から構築してきた学校・地域・家庭が連携・協働する体制が整い、CSに関する教職員、保護者評価が向上した。その結果、学校運営協議会と地域コーディネーターの働き掛けにより、地域人材を活用した地域学校協働活動を本年度は5回の授業を実施することができた。また、保護者の参画による学校支援事業では、延べ360名の協力を得ることができた(2月6日現在)。学校からの情報発信については、時期を逃さず発信する、発信する内容を学校行事等に合わせることに努めた結果、保護者評価4の割合が増加した。	
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり、学校便りやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	3.7	3.4	3.4		
特色ある学校づくり	交流による助け合い	異年齢集団活動等を通して、異学年交流を深めながら奉仕や助け合いの気持ちを育てている。	2.8	3.5	3.2	○ 全校児童が集まる行事も再開され、異学年交流も実施することができ、一定の評価が得られた。 ● 感染状況によって異学年交流による奉仕活動が停滞した時期もあり、実施時期の見直しを検討する。	
施設・設備の充実	ICTの有効活用	1人1台タブレットやデジタル教材等を活用して、授業の充実に努めている。	3.8	3.9	3.3	○ 愛媛県総合教育センターの出席講座や校内独自のICT研修「北LIS」等、研修機会の充実によって、日常的にICT機器を活用することができており、教職員、児童の評価が高い。保護者からは、児童のタイピング技術の上達ぶりに驚きや喜びの意見が聞かれた。持ち帰り時の接続や不正使用等の課題解決に向け、今後も積極的な研修に取り組む。 ● 新校舎の建設に喜びの声も聞かれる一方で雨が廊下へ降り込む問題についての指摘があった。市教委と連携して改修を進め、より安全で快適な環境づくりに取り組む。	
	施設・設備の安全管理	新しい校舎等学校施設を有効に活用しながら、児童の安全に配慮して教育活動を進めている。	3.2	3.8	3.3		

